

「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

2008年 6月11日
「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会 NO. 8

第2回定期総会を開催 08年度の活動方針案等を採択



冒頭挨拶をする大藪憲治会長

6月1日(日)午後1時から、名古屋伏見の愛知県保険医療協会伏見会議室で「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会第2回定期総会が開催されました。当日は参加団体の構成

員および新聞の案内等を見て来場された

一般参加者約70人が出席しました。

冒頭挨拶に立った大藪憲治会長は魯迅の故郷という詩の一説「希望は地上の道のようなもので、もともと道はない。歩く人が多ければ道になる」を紹介し、この会が歯科医療従事者と治療を受ける患者さんが大変は思いをしていることをいっしょに声を出し合って歯科保険医療を改善していこうと1年前に発足した。すこしずつだが希望に繋がっていると述べました。

続いて記念講演として岡山大学医学部・歯学部大学病院小児歯科講師の岡崎好秀氏が「歯のふしぎ博物館」をテーマに、身体と歯の興味深い関係をユーモアたっぷりに講演されました(要旨は次ページ)。

講演終了後、城殿靖彦事務局次長を議長に選出し議事に入りました。第1号議案07年度活動のまとめを大藪憲治会長が報告しました。07年度活動方針に沿って報告があり、患者署名については49000筆超とほぼ目標を達成し歯科単独の署名としては過去最高の目標数を達成したこと、

自治体の「保険でよい歯科医療の実現を求める」意見書採択は13自治体で採択されたこと、歯の健康講話が10回以上開催された等、発足1年目ながら大きな成果があったことが報告されました。

続いて第2号議案として08年度活動方針案について江原雅博副会長が提案し、以下の7項目が提案されました。

県内各自治体で「保険でより良い歯科医療を求める意見書」採択運動に引き続き取り組む。



提案する江原雅博副会長

「より良く食べるはより良く生きる」出前学習会を開催する。

ニュースの定期発行をめざす。

会としての要望事項をまとめ関係各所に働きかける

市民向け学習啓蒙企画を開催する。

世話人会の定期開催と参加団体の拡大をめざす。

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会に参加し、全国の運動と協力・共同した活動に取り組む。

会内でも歯科問題についての 学習会を旺盛に —参加者の発言から

活動報告、活動方針案の提案を受け、参加者から以下の発言がありました。

石谷さん(新日本婦人の会):日本母親大会が19年ぶりに愛知にやってくる。「親子



で学んで遊ぶ」という分科会の中で「健康な身体は丈夫な歯から」というテーマがあるが、この会に参加させていただいたことがきっかけで生まれた分科会。私自身現在妊娠3ヶ月で4歳の子供もいるが食べることでそのものが子育てにつながると実感している。この会では講師を無料派遣しているので新婦人でも紹介して学習に取り組んでいきたい。

栗木さん(アレルギー支援ネットワーク):



東海アレルギー連絡会の森さんとともに参加している。名東区の歯科の先生から強いお誘いもありこの会に参加した。食物アレルギーと噛むことに強い関係があることを私達もかねてから勉強していた。娘はすでに成人し

たが大変強い金属アレルギーで、ありとあらゆる金属に反応し使えるのはチタンなどの特殊なもののみで、中学の時虫歯治療でたいへんつらい出費をさせられた覚えがある。歯の治療をしなくてもいいような丈夫な子供がたくさん育つようにしたいと思っている。我々の会は力も小さくて署名にも取り組んだことのないところがほとんどで「保険で良い歯科医療」の署名もほとんど取り組めなかった。今年7月の総会では大藪会長に来て頂いて出前講座をしていただく予定。それ以降も出前講座で勉強をすすめていきたい。アレルギー大学として年間20数講座開いているが、来年以降その中にも講座としていられるようにしていきたい。保険でより良い歯科医療の運動を地道にすすめられるようにしていきたい。

富田先生(保険医協会): 署名をあつめたものを地元の国会議員に持って行った。議員は関心が有りそうでないというのが実感。2回3回と訪問を重ねる中ですこしずつ問題を感じてくれたようだ。ぜひ皆さんも国会の現場に行って臨場感を感じていただきたい。そのためには署名が大事である。もう一つは若手の厚労省の技官と話したが地元の議員の紹介で実現した。できれば協会から議員をそろそろ送る時期でないかと思う。

若林さん(北医療生協): 今日の話はためになったしおもしろかった。もっといろんな人にひろげたい。歯って大事なんだということを学んで拡げていくことが大事でこうした現実を聞いていくことで



署名の取り組みもできる。歯医者さんは無くなっては困る。安くて安心してかかれ、痛くなる前にいけるのが一番。またいろいろな場でひろげていきたい。いっしょに頑張りましょう。

吉田さん(年金者組合): 出前講座でお世話になっている。後期高齢者医療制度の署名に取り組んでいるが、始まって医療費が抑えられている、このことの歯科への影響がどうか説明して欲しい。



直接歯科は関係ないが医療費抑制で入れ歯をつくるのに新製でなく修理でお願いしたいというお年寄りが増えていると聞いている。

鵜飼先生(三重県保険医協会): 三重ではなかなかこうした運動ができない、うらやましいと思う。署名も5万という到達点があるので皆さん確信を持って運動をしていっていただきたい。岡崎先生のご講演をDVDにして見て貰うとかすればもっと運動が広がるのではないかな。微力ながら三重県も頑張っていきたい。

事務局長に上ノ内洋氏(保険医協会)を選出

続いて原田事務局長から07年度会計報告、08年度予算案、08年度世話人体制についての提案がされました。08年度役員体制では大藪会長、江原副会長は引き続き留任で、事務局長については選出組織の体制変更により原田氏より保険医協会事務局の上ノ内洋氏に変更されることが提案されました。すべての議案提案後一括で採決が行われ満場一致で承認されました。これですべての議事を終了し、新しい年度がスタートしました。

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会

第2回定期総会記念講演

岡崎好秀氏講演要旨

「ようこそ歯のふしぎ博物館へ」



身体は上から順番に動く

高知県へ障がいを持っている子の歯の治療に行っていた時のこと。鼻からチューブで栄養をとっていた子が嘔吐したが、2時間半前からのんだエンシュアリキッドが全くにおいしません。胃液が出てい

ないということです。物理的に胃に入れても消化吸収されるわけではありません。人間の身体は上から順番に動いていく、胃が動く前には食道がうごきその前に口が動く。最初から経管栄養にすることはヒットを打ったら1塁にいかずはじめてから2塁に行くようなもの。経管栄養だからこそ口をケアし動かさなければいけないのです。

歯は履歴書

少年院の子供は乳歯のころからひどい歯をしています、ほんとうにその子達が悪いのか？乳歯の虫歯予防は家庭に責任があります。児童虐待の子供達の乳歯の虫歯罹患率は普通の子の2倍以上、治療していない歯の数は6倍以上という調査があります。親のその子に対する興味の無さが口の中にあらわれます。凶悪犯罪を起こした子ほんとうにその子だけが悪いのか考えてみる必要があります。児童虐待はどうしようもない親とかわいそうな子供という図式しかなかったが、こうした状況を放置しておいてはますます住みにくい日本になってしまうと思います。

歯は生えて3年ぐらいいまで虫歯になりやすい。歯は履歴書ということが出来ます。子供が歯の治療が自分のためとわかるのは4歳ぐらいいといわれています。しかし5歳になっても泣く子は泣く、特におやつをほしがるときに与えている子はよく

泣きます。どうしておやつの与え方と歯の治療が関係するのか？一定の我慢が必要で、乳幼児期のおやつの与え方が大事なんです。泣けばゆるされる、今の日本はなんでも与えられるというのでは我慢は育たない。1月15日の成人式のシーンをみるたびにこの成人達はどんな口をしているか、おやつも我慢せずにあたえられていたのではと考えてしまいます。

よく噛んでたべることが身体をつくる

身体の小さい子、顔色の悪い子は歯がぼろぼろであることが多い、ちゃんと食べられないから身体が小さい、顔色が悪いとうことがあります。生まれた時と今の体の大きさととの差はまさに食べ物です。食べ物を体に吸収させるために噛み砕くそのために歯があります。友人の小児科の先生は食物アレルギーの一番の予防はといえば良くかむことと必ず言います。たまごかけご飯のようにつつと入っていくと、表面だけ消化されて中のほうがそのまま腸管に行き表面を傷つけてしまう、それが抗原となって食物アレルギーを起こす可能性がある。人間の体というのはそういうものなんです。



食べ物が変われば口も変わる

ヒマラヤでは現地の人たちは大便をするときに山側に向くという話があります、何故か。排泄物の量は食べ物によって違います。穀類など繊維質を多く摂取する人は量が多く、肉類の多い人は少ない、日本人はその中間です。排泄部の量が多いと谷側をむくとおしりにつかかる。食物繊維の多い食物を食べているからです。食物繊維は体にいいことばかりですが、歯がないと食べられない。大阪の先生が昭和30年代の健診結果から、内科健診で寄生虫のいる子は虫歯が少ないというデータがあると紹介されました。寄生虫は野菜にいる、寄生虫のいる子達は野菜をたくさん食べていたと

推定されます。野菜を良く食べている子の方が圧倒的に虫歯がすくないということがある歯科大学の論文にもあります。「なぜ人は歯を磨くのか」という石川純先生（北海道大学名誉教授）の本の中で、サルは口の口の中が紹介されています。動物園のサルは歯周病も起こしている、野生のサルは木の皮とか実など硬いものを食べるため歯の汚れもなく歯茎も引き締まっています。軟らかいものは口の中を汚します。分かりやすく言うとナイフでリンゴを切っても汚れはつかないが、ケーキを切ると刃にべったりとケーキがつきます、歯も同じです。

1945年米国で出版された「食生活と身体の退化」という本があります。かつての南太平洋の島々の人たちは大変きれいな歯をしていた、芋類や魚介類を食べていたためです。そういう島に甘い物や柔らかいものが入ってきて歯周病が増え歯並びの悪い子が増えてきたとうことが62年も前から書いてあります。それを自分の目で確かめたいとモンゴルに行きました。

1992年に最初に行った時、遊牧民の最大のごちそうは羊、栄養の養は羊を食べると書く。羊が大きいとかいて美しい、正義という字も羊に我と書く。頭の先っぽからしっぽの先っぽまで食べる、いっさい野菜をたべないといいますが、羊をすべて食べるから人間に必要なミネラル等も摂取できるわけです。羊の骨付き肉を前歯で引きちぎって食べる、前歯はものを切るためにあります。今の日本の子供はほとんど前歯を使わない、それが前歯の歯並びを悪くする原因ではないでしょうか。チベット仏教では高齢の方に軟らかい食べ物を出すのは失礼にあたります。食べなくてもいいが出すことが長寿の証となります。そういう国に無制限に甘い食べ物が入るとたちまち虫歯が増えています。

日本には昔虫歯があったのか調べるために、南西諸島に行きました。ここには風葬という習慣があります。風葬は6年間土に埋めそれを掘り出して海水で洗い、洞窟にお供えするというものです。そのお骨を見ると虫歯がない、歯石がついていない、歯周病もない、歯と食べ物の関係をあらためて思い知らされました。

唾液の威力

最も多くの日本人に読まれた健康書は貝原益軒「養生訓」です。貝原は生まれながら病弱だった、

そのため古今東西の健康法を調べて実践しました。そのおかげで83歳の生涯をまっとうしたとの事です。貝原は朝起きたらうがいと歯を磨きぶくぶくうがいをする。うがいをして最後のお湯を荒布でこして目薬として使っていました。このおかげで虫歯もなく目も丈夫だったそうです。唾液には抗菌物質が入っています。昔からよだれの多い赤ちゃんは丈夫に育つ、高齢になっても唾液の多い人は長寿を得ると言われています。よく噛むと唾液がよく出て癌の予防にもなると言われています。鼠の背中を1センチぐらい切り、単独および複数で生活させ差を見ると複数でいる鼠の方が治りが早い、別の鼠が傷口をなめてくれるからです。唾液には早く治す作用がある。唾液がPHをもとに戻す力は水の1万倍ぐらいあります、全く唾液がでないとどうなるのか、放射線治療をすると唾液が出なくなり口の中は大変な状態になります。放射線治療をする前にガムを噛ませるそれだけ唾液腺が発達する、放射線によってダメージを



受けても被害が小さくすることができます。

食べ物がかわれば口がかわる、私が卒業した頃と比べて今の子供は唾液がたまらない。昔の子

はつばだらけ、つばがたまらない分歯の治療は楽になりましたが、流し込み食べが多いからではないかと考えます。つばがでないと味もわからなくなる。ドライマウスは投薬によるものが多いが、しかしそれだけでなく、あごを開け閉めすることでポンプのようになって唾液がでできます。舌を動かすことによっても唾液が出ます、こういう動きも大事にすることが大切です。

まだ色々おもしろい話がありますが、今日は時間になったのでこれで終わります。(文責事務局)

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会

〒466-8655

名古屋市昭和区妙見町19-2

愛知保険医会館内

TEL 052-832-1349

FAX 052-834-3584